

令和3年度 附中アンケート（保護者）結果から分かること

＜評価の良い項目＞

- ・1・2・3の自主性を大切にした授業づくりについての設問と，11の「生徒の自主性を大切にしている。」に対しての評価は良い評価をいただいています。
- ・5が高い評価であることから、家庭でも学校のことを楽しいと語っている生徒が多くいることが分かりました。
- ・9・15の評価が高いことから、懇談や電話連絡、通信やHP等を活用した生徒・学校生活の様子についての情報提供ができていることが分かりました。

＜評価の良くない項目＞

- ・6の「生徒は，自主的な活動（生徒会活動や課外活動）に積極的に参加している。」に対しての評価は、「どちらともいえない」「あてはまらない」といった評価が他の項目よりも多くなっています。今年度もコロナ禍にあり、課外活動の時間の確保が十分にできなかったことや，生徒の自主的な活動を制限せざるを得なかったことが要因であると認識しております。感染状況を見ながらとはなりますが、生徒の自主性を高めることができるよう，声かけや教員からのサポート等を行うなど働きかけていきます。

＜前年度との比較＞

- ・前年度と比較して大きな傾向の変化はありませんが，どの項目においても「あてはまる」「ややあてはまる」の評価が高まっていました。学校としてもコロナ禍においても感染症対策をとり、できる限り活動を再開させてきたことや生徒が附中らしさを取り戻そうと努めてきた結果であると考えられます。

＜記述欄について＞

- ・1人1台chromebookが配布されたことで、学校・家庭での使わせ方について御意見をいただきました。今年度は活用していくことに重点を置いて進めてきたが、今後はどのように学校生活で使っていくか情報モラルをいかに高めていくかといったことも並行して指導を進めて行く必要があると考えています。また、ICTの使い方については御家庭との連携も必要となるため、引き続き御協力をお願いします。
- ・部活動についても複数件の声をいただきました。学校による運営を希望される声もありますが，より生徒の活動の幅を広げるため、保護者の皆様のお力をお借りする「F活」への移行を進めています。様々な課題も出てくると考えられますが、新しい課外活動の形をつくりあげられればと考えておりますので、御協力をいただくとともに様々な声を聞かせてください。お願いします。
- ・今年度から定期テストから単元テストへと変わり、様々な声をいただいております。学習内容の定着や目標が身近にあることで学習に取り組みやすくなるといった利点がある反面、日々テストに追われることの負担やこれまでと大きく変わることへの不安をもたらしたようです。この点については成果と課題を明確化し、よりよいものへとしていきたいと考えております。
- ・コロナの感染拡大により今年度も学校行事が制限されました。その中でもできることをできる限り取り組めるように努力してきました。来年度も感染状況と相談しながらの実施となりますが、生徒達の充実した学校生活を実現するため、工夫していきたいと考えております。
- ・生徒指導については、新型コロナ対策で認めてきた私服について御意見を複数件の声をいただきました。来年度は感染が収束傾向であれば制服へと戻していく予定ですが、制服の在り方については教員・生徒・保護者で考える必要があると思っております。

令和3年度 附中アンケート（教員）結果から分かること

＜評価の良い項目＞

- ・1・2の自主性を大切にした授業づくりについての設問には良い評価をしています。また、授業に対する意欲やICT機器の活用についても良い評価をしています。自信を持って授業ができていることが表れていると考えます。

＜評価の良くない項目＞

- ・7の「生徒は，『公共を意識した態度』が身に付いている。」に対しては昨年度に引き続き評価はよくない。校内でできることは限界がありますが，道德の授業や，日頃の生徒指導の中で心を育てていきたいと思います。
- ・6の「生徒は，自主的な活動（生徒会活動や課外活動）に積極的に参加している。」に対して、どちらとも言えないの回答の割合が高くなっています。コロナ禍にあり課外活動の時間の確保が十分にできず，生徒の自主的な活動の時間の確保が不十分であったことも一つですが，コロナの収束を見据えて、改めて自主的に活動できるような生徒を育てていくことが必要だと考えます。

＜前年度との比較＞

- ・前年度と比較して大きな傾向の変化はありませんが，いじめの対応がしっかりとできていると肯定的な回答が増え、良い傾向だととらえられます。様々な背景を抱える生徒がいるため、寄り添いながらきめ細かく指導していくことを大切にしていきたいです。

＜記述欄について＞

- ・コロナ禍で，臨時的に変更になったことについて今後どのようにしていくのか考える必要性を感じている意見が多くありました。コロナが収束に向かっている状況下にあるので、今一度、変えるべきところと伝統として残していくべきところをしっかりと議論し、生徒や保護者に説明していく必要があります。
- ・公共での生徒の立ち振る舞いについての意見も多くありました。自主自立とはどのような姿か、自由がある反面、責任も伴っていることを再度確認していく必要があります。
- ・次年度に向けて前向きな意見が数多く寄せられました。新研究が始まることもあり、教職員が連携を密に取りながら同一歩調で進めていければと思います。

令和3年度 附中アンケート 生徒の結果から

＜生徒のリーダーチャートから＞

- ・全体的には全ての力において70～85％近くの生徒が「できている」と評価をしており、学級に対して満足していることが伺える。また、学年別には学年が高くなるにつれて評価を高くしている傾向にある。
- ・6つの力の中で、全ての学年において対話力と安心力が高い。これは、様々な場面で自分の意見を表出することができ、男女の垣根なく互いのよさを認めあうことができる附中生の特性が顕著に表れているといえる。
- ・6つの力の中で規律力は生徒達にとって振り返りやすく、比較的辛めの評価をする傾向にあるが、附中においても基本的な学習・生活習慣が60％のできであると捉えている。また、学年別には学年が低くなるにつれ、評価を低くしている傾向にある。
- ・個々の項目については、全学年共通して、互いに学習で教え合いができる「支え合い」、友達の意見を関連させて発言できる「つながり」、男女仲良く学習・活動ができる「仲間」が90％前後「できている」と評価している。また、3年生については、話し合いで考えを進んで出し合える「積極性」を95％近くの生徒が「できていると評価している。
- ・反対に60％前後しかできていないと低く評価をしている項目は、授業中に私語をしない「学習」、廊下や教室を整理整頓できる「整理」、授業中にグループで協力できる「協力」で、全学年共通していた。また、2年生については、校外で人の迷惑にならないよう考えて行動できる「校外」も同様に低く評価をしていた。

＜記述内容から＞

- ・生徒がそれぞれの力に関わって具体的にふり返ることができている。特にできていることについては、リーダーとフォロアーが上手に機能していることが伺える。また、安心力に関わることについては、仲間の個性を認めたり、学級全体でよい雰囲気を作ることができていたりすることが記述からも分かる。
- 反対に改善が必要なことは、特定の集団や個人が要因となっていることが伺える。また、自律力や規律力については、代表者会が日頃呼びかけている内容が挙げられており、当たり前のことを当たり前にすることの難しさを感じていると考えられる。
- ・自分自身が頑張っていることについては、自分に関わることもみんなのことを重点において内容がほとんどであった。これらの努力が安心力や協調力といった内容に表れていると考えられる。
- ・努力が必要なことについては、自律力や規律力に関わるものが多く挙がっているが、話し合いを活発化し、自分も意見を述べられるようにしたいといった、附中の授業を生徒側からも創り上げたいと考える意見も多く見られた。

令和3年度 附中アンケート 3者の結果を比較して分かること

＜アンケートの結果から＞

- ・保護者、教員とも附中の学校生活や授業について肯定的に捉えていることが分かる。また、それにより生徒達も全ての力について高い割合で「できている」と評価しており、学校の働きかけが生徒の向上につながり、保護者の満足や信頼につながっているといえる。特に意欲的な授業への取組、自ら考えて表現することや安心できる教室の雰囲気があることについては、それが顕著に示されている。
- ・自主的な活動については、保護者、教員とも「どちらともいえない」「あてはまらない」という割合が30％あった。生徒達も自律力においては、他の力に比べて60％と評価が低いことから3者とも改善する部分があることで一致している。生徒は規律力の評価を厳しくしていることから、あいさつや整理整頓、私語の注意など日常の当たり前にこそ目を向け、自分たちの力で改善していくことも自主的な活動にあたることを伝えていく必要があると考える。
- ・公共への態度について教員は80％近くが身に付いていないと捉えており、保護者の捉えと大きく異なっている。しかし、生徒も規律力の「校外」の項目の評価が60％と低いことから、十分にできていないという認識は一致しているといえる。生徒達に現状を振り返らせるとともに、どのような姿になるべきなのか考えさせ、行動化につなげていけるとよい。また、教員も駅周辺の見回り等引き続き対応していくことが必要である。
- ・いじめや心の悩みの対応について、教員と保護者で捉え方に差異があり、保護者の30％近くが「どちらともいえない」「あてはまらない」と回答している。教員がこれらの対応をしても、生徒が学校では話せない悩みや不満をもち、家庭で吐露していることや生徒・保護者が納得できる状況にまで至っていないことがあると考えられる。生徒達も評価が高い安心力の中で、尊重の項目のみが低いことから、いじめにつながるような行動をさせない教室風土の醸成に教員は努めるとともに、起きてしまった場合においても生徒情報を共有し、チームで対応していくことが必要である。
- ・安全の配慮や評価、進路指導については、保護者、教員とも同じくらいの割合で「どちらともいえない」「あてはまらない」の回答があった。改善の余地があると捉え、現状を把握し、よりよくなるように働きかけていくことが必要である。

＜記述内容から＞

- ・保護者、教員、生徒が、学校生活や授業、行事に対して肯定的かつ前向きに捉えていることが分かった。そして、附中のよさを実感し、よりよくしていこうと3者が思い、それぞれの立場で働きかけようとしていることも分かった。
- ・改善点についても自主性や規律、安心に関わることで3者が共通している内容が見られる。問題を共有し、3者がスクラムを組んで解決に向けた努力ができるとよいと考える。
- ・新型コロナの感染や国の施策によって急激な変更がなされてきた。（1人1台P Cや私服登校、宿泊行事等）それが良い面として現れた反面、混乱や不安、心配ももたらしている。仕方がない所もあるが、3者があつての学校であることを踏まえ、先を見通した計画や丁寧な説明、情報提供をしていきながら理解と協力を得ると共に、必要に応じた改善や変更を進めていくことが大切であると考ええる。
- ・単元テストや日課、評価、部活動については賛否を含めて様々な声が上がっている。変更当初でもあるため、問題点をしっかりと洗い出し、よりよいものにしていく必要があると考える。
- ・このようなそれぞれの生の声を聞くことは、自らを振り返り、違った視点から学校を見つめ直す貴重な機会であると考ええる。今後もこれらの声に耳を傾け、できていることに自信をもつと共に、反省すべき点は真摯に反省するなど、今後の学校づくりのため有効に活用していきたい。